

P-075

周産期における父親の変化が 母子の関係性に与える影響 -母親が捉えた父親の変化の観点から-

長濱 輝代¹、加藤 直子¹、管生 聖子²¹大阪公立大学 生活科学研究科²大阪大学大学院 人間科学研究科**【目的】**

近年父親の産後うつなどの健康リスクが明らかになり、育児基本法でも父親が支援の対象と位置付けられた。一方、周産期の父親の健康状態や生活実態、それらが母子関係に与える影響といった研究は緒についたところである。今回、発表者らが行った周産期の援助要請の縦断調査のうち、父親の変化が母親と赤ちゃんの関係性に与える影響について報告する。

【方法】

マクロミル社リサーチモニターで妊娠中(2023年3月)および産後(9月)ともに調査に回答した母親616名である。年齢、就労・婚姻状況等のほか、父親の心理面の変化に関する自由記述を求めた。母親が捉えた父親の身体面、心理面、社会・経済面での心配な変化の有無、父親の両親学級への参加、産休、育休の有無とその満足度を尋ねた。母親と赤ちゃんとの関係性については赤ちゃんへの気持ち質問票(以下MIBS-J)を実施した。大阪公立大学生活科学研究科倫理委員会(22-70)の承認を受け実施した。

【結果】

有効回答者616名、平均年齢31.6歳(SD4.1)、初産婦161名、既婚580名であった。自由記述では4割が父親の心理面での変化を記載していた。MIBS-Jは平均3.38点(SD4.45)、3点以上は253名(41.1%)であった。父親の心配な変化についての内訳は、身体面の変化：妊娠中34名、産後38名、心理面での変化：妊娠中44名、産後42名、社会・経済面での変化：妊娠中63名、産後79名であった。父親の両親学級等への参加、産休、育休については10~20%が満足していないと回答した。MIBS-J得点では、父親の両親学級への参加の有無を除く他の要因全てで差がみられた。特に、婚姻状況、父親の身体面の変化(妊娠中・産後)、心理面の変化(産後)、産休の満足度は効果量が大きかった。

【考察】

母親が捉える父親の心配な変化や父親の支援に対する満足度が、母親の赤ちゃんへのボンディング得点に関連していることが分かった。母子の良好な関係性構築のためには、父親のメンタルヘルスの介入・改善に加え、それらの変化を母親がどのように捉えているのかといった主観的・質的側面からの介入も重要であると考えられた。

本研究はJSPS科研費JP22K03153の助成を受けたものである。

P-076

2023年度 電話相談室の現状から 他機関専門職との関りを考える

檜垣 君子、川嶋 泰子、橋本 玲子、赫多久美子、及川 郁子

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク

【目的】

電話相談の現状から他の難病相談センター等(以下、他機関専門職とする)との連携を明らかにすることで相談室の役割を考察、情報収集を行うための具体的なアプローチ方法を考案する

【方法】

1. 過去3年間(但し2023年度は2024年1月31日まで)の電話相談件数、相談内容を分類し比較検討
2. 過去3年間(但し2023年度は2024年1月31日まで)の他機関専門職からの電話相談内容を分類し比較検討
3. 相談してきた他機関専門職の背景等の分類

【結果】

相談内容の分類を行った結果、相談全体と他機関専門職からの相談共に同病者・親の会の紹介を要望する内容が多かった。しかし相談全体としては精神的ケアが占める割合が同病者紹介の割合を上回る年がある一方、他機関専門職からの相談は同病者紹介が毎年群を抜いて多かった。また、他機関専門職の分類では、病院、難病相談支援センターからの相談が多いが、遺伝カウンセラーや自立支援専門員からの相談も毎年数件見られた。

【考察】

他機関専門職からの相談内容の多くが患者会や同病者の紹介に関してであることから、患者会情報の集約が必要である。当相談室と他機関専門職との連携の方法を考案し、相談者の「同病者と繋がりたい」という要望に応えることが重要である。具体的な方法として、すでにある資源の利用と新たな試みを考案した。他機関専門職との連携を具現化するために、当会が行っている事業を利用する。利用できる事業として、小児慢性特定疾病児童等支援者養成事業である「自立支援員研修会」と「親の会連絡会」がある。「自立支援員研修会」は国立研究開発法人「国立成育医療研究センター」主催で当会は協力団体としての役割を担っている。これまでも他地域から参加する自立支援員との交流を行ってきたが、今後は電話相談室との連携を視野に入れ、他地域の自立支援員と積極的な情報交換を行う。「親の会連絡会」は、病気や障害のある子を持つ親たちを主な構成員として組織された団体が相互交流や情報交換を目的として定期的に会議を開いており、その会議の名称を呼称したものである。原則として一疾患一団体であるが、地域ごとに作られている疾患団体もあるため、各団体から他地域団体の情報を収集する。その上で、新たに相談室として患者会情報のデータ共有等に関する調査を他機関専門職に依頼し、情報を収集し相互連携を図っていく。